吉野復興大臣ぶら下がり会見録

(平成29年6月3日(土) 15:10-15:18 於) 福島市)

1. 発言要旨

今回の検討会では、このたび取りまとめをいたしました2020年までのロードマップ改訂版、今後の取組の重点テーマ等について、委員の皆様方から御助言を頂きました。

次のような議論がございました。まず、福島県の12市町村からの御意見ですが、まとめてみますと、営農再開、これを進めたい。産業の振興、特にロボット産業、ここを振興したいという御意見。

また、かなりの町が来年の4月に学校を再開いたします。この学校再開についてのお話、また、困難区域での拠点の整備、そして、医療、介護、また、交通網、特に、公共交通のお話が出ました。常磐線も含めてでございます。そして、防犯、鳥獣被害対策等についての御意見も出たわけです。

また、福島県知事の方からは、担い手の確保、そして、財源の確保という要望も出されました。そして、若い世代の方々がどうすれば福島県に帰って来られるかというお話も伺っております。

有識者の方々からは、まず観光の振興、これを図るべきだ。そして、オリンピック・パラリンピック、特に、パラリンピックについては、日本一の施設がある、いわゆる障害者スポーツのメッカにすべきだという御意見もございました。

また、農業の生産性向上、いわゆる大規模化をして、生産性を向上すべきだというお話がございました。また、福島のブランド化、農産品のブランド化も町々でブランド化を図るのではなくて、福島のブランド化を図るべきだというお話もございました。

また、教育と産業の一体化を図るべきだとの意見。例えば、高校を、小高の高校を出ても、卒業しても就職先がきちんとロボット産業、また、廃炉産業に結び付いていないのが現状でございますので、入学するためにも先の就職先まできちんとつながっていれば、安心して入学して勉学に励むことができるというようなお話も伺ったところです。

プロスポーツを活用すべきだというお話もございました。また、情報発信の強化をすべきだというお話も伺ったところです。

今後は、将来像の提言の実現に向け、本日頂きました御助言等も踏まえて、関係省庁、県、市町村、民間と連携して取組をいたします。引き続き、進捗管理のためのフォローアップを行ってまいります。

2. 質疑応答

(問) 広域連携の加速化に向けた6項目、重点項目を発表されたと思いますけれども、どれも大事かと思うんですけれども、大臣、特に力を入れてやっていきたいと思っていられる項目はどれですか。

(答) 最後の消防団です。実は、この間の浪江の火災がございましたね、山林火災。消防団の方々が、団長さんと副団長さんは対策本部におりましたけど、若い消防隊員の方々がなかなか見えられませんでした。これは3月31日に解除したばかりでございますので、そういう地域の絆を保つためにも、特に、消防団の方々は若い方々ですので、この方々の支援といいますか、6つの重点項目の中では、どれもが大事です。どれもが大事ですけど、今の御質問に答えれば、私は消防団を一生懸命やっていきたいと思っています。

(問) 今、おっしゃられた課題なんですけれども、震災直後から言われていて、どうしても福島の人たちからしてみたらなかなか進んでいないというのが実感であります。少なくとも私たちはそうなんですけれども、これをより加速させていくという決意もありましたけれども、具体的にどのように取り組んでいかれるおつもりですか。

(答) 今日は12市町村の将来像ですけれども、それぞれの市町村でやはり進捗具合が丸っきり違います。例えば、大熊、双葉はまだ解除されておられません。ですから、それぞれの市町村によって抱えている課題は違いますけど、復興庁としてはそれぞれの課題にきちんと対応して、問題を解決していきたいと、このように考えています。

(問) 先ほどいろいろな提言があったという御紹介がありましたけれども、大臣の中でこの提言は印象的だったというか、今後さらに対策に取り組まなきゃいけないなと思ったところはどこがあったところがありましたか。

(答) 大学と大学の先生方は、ある意味で復興にすごく協力的だ、だから、もっと参加をしたいという思いがあるそうです。それを受け入れるための仕掛けが今のところないので、特に12市町村、広域連携ですから、連携して大学の先生方を呼んできて講演するとか、また、12市町村の子供たちが大学に行って勉強するとか、そういうことをしたらいいでしょうという提言がございましたので、ああ、なるほどだなというふうに思いました。

特に来春、未来学園、初めての卒業生が出ます。教育長さんたちのお話を聞くと、やっぱり高等教育が一番、高校卒業生が出ますので、もう一段上の高等教育のところが心配だというお話を伺っていただきましたので、ちょうど今日の提言と結び付く話なのかなとい

うふうに思いました。

(以 上)